



発行・カトリック水巻教会
編集・広報委員会
遠賀郡水巻町頃末南1丁目35-3
〒807-0025
TEL 093(201)0680 FAX(201)7354
第342号

ホームページアドレス <http://mizumaki-church.sakura.ne.jp>

クリスマスの光 マヘル神父

2015年の待降節に入りました。クリスマスとお正月が近づいてきました。昔の博士達も空の星の光に従って、イエスを探す旅を始めたように、私達も今年の待降節から旅を始めましょう。

イエス様が新たに私達の心に生まれましたか？どんなに立派な恵みを神様に頂くのでしょうか？

私達一人だけでなく、共同体してこの恵みを感謝し、和解と喜びを頂きましょう。

聖パウロが何回も言ったように、私達個人や共同体の中にキリストは生きている。この付き合いのお蔭で本当の救いを頂く、本当の平和と感謝の心を頂く、霊的な生活の旅です。そして、私達はその旅人なのです。「霊的に生きる」と言うことは前に進むことであり、進歩すること、成長することなのです。心・良心を覗いてみると、停滞している、あるいはむしろ後退していると感じる所があります。更に、それらの根源を知るためには、充実に正直である必要があります。そして、問題点や罪を主に委ねるなら、あなたは神の憐れみ、優しさ、そして癒しにより、頼むことが出来るでしょう。この旅はプロセスです。一度やって見るだけでは完成することが出来ない。何度も繰り返し失敗しながら少しずつ進歩する。

あなたが癒しを経験する為に他に向き合い考えなければならないことがありますか？神との関係、他者との関係、そして自分自身との関係を見つめ直して見てください。自分の問題点だけではなく、それらの根源についても考えて見てください。あなたが自分の痛みと面と向き合い、それを認め、そして前に進むことが出来るように。

福音の喜びは、イエスに出会う心と生活全体を満たします。しかし、イエスの出会いがなければ、神の声に耳を傾けたり、神の愛がもたらす甘美な喜びを味わうこともなく、ついには善を行う熱意も失ってしまうのです。信仰者にも、常にこの誘惑に陥る危険性が確かにあります。多くの人が危険に陥り、イライラして愚痴をこぼし、生き生きとしていられないのです。それは、尊厳ある充実した人生を選択することにはなりません。

それは、神が私達に望んでいる道ではありません。復活したキリストの心から、湧き出る聖霊に結ばれた生活ではありません。

夜と霧	2・3面
小教区委員会	4面
環境の回勅	5・6面
今月の聖人	6面
教会学校のページ	7面
お知らせ・幼稚園から	8面

私達は切に願わなければなりません。冷え切ったところを開いてくださるよう、熱意に乏しく上部だけの生活を送る私達を目覚めさせてくださるよう、イエス様の恵みを切に願わなければなりません。「十架の前にいる事」「聖体の前にひざまずくこと」「ひたすらイエスのまなざしを受けていること」それは

なんと甘美なことでしょう。いかなる時もイエス様の弟子である人は、イエス様と共に歩み、共に呼吸し、共に働いて下さることを知るものです。

私達もクリスマスには星の光に導かれイエス様と会いましょう。



『夜と霧』を読んで

矢田 公子

2年半前入院中にこの本をお見舞いに頂いていた。この度読んだのは、戦後70年であること、旧約聖書通読を通してイスラエルの精神性に多少ふれることができた。心理学者であるヴィクトール・フランクルは、自分の強制収容所体験を三段階に分けて書いていた。施設に収容されるまでの第一段階、収容所生活そのもの(第二段階)、第三段階は、収容所からの解放だった。

フランクルは、精神科医師であったが、単にユダヤ人というだけで逮捕された。持ち物といえばリュックサック一つで、ウィーンから家畜のように貨車1台に80人ずつ詰め込まれ、昼夜ぶっ通しの列車移送でアウシュヴィッツに送られた。すべての所持品は有無を言わせず奪われ、貨車を下りると、親衛隊将校の前を歩いた。将校の人差し指が左右に動き、1500名の90%が労働に適さない者とされ、プラットフォームのスロープから直接「入浴施設」と書かれた焼却炉のある建物へ入った。(最初の選別)一方、著者ら残りの者は、強制労働に振り向けられた。消毒と称して身ぐるみはがれ髪まで剃られ、靴だけを持つことが許された。次に何が起こるかという恐怖の中で、毒ガスではない本物の水のシャワーを浴びた時は仲間と喜んだ。

収容所では、カポーといわれる残忍な被収容者が監視兵のもとで、下働きをするシステムになっていた。カポーも役に立たなくなるとガス室に送られた。居住棟では名前も肩書きもなく収容服に書かれた収容者番号で識別された。食事は小さなパン1個と水のようなスープ、餓えと寒さに凍え、暴力を振るわれ、極寒の中深夜に及ぶ戸外労働だった。不衛生な状況で発疹チフスが蔓延した。

「収容所に入れられ、何かをして自己実現する道を断たれるという、思いつく限りで最も悲惨な状況、この耐えがたい苦痛に耐えるしかない状況にあっても、人は内に秘めた、愛する人のまなざしや愛する人の面影を精神力で呼び出すことにより、満たされることができる。」

ひとりの飢えかけた被収容者がジャガイモ倉庫に忍び込んで数キロのジャガイモを盗む事

件があった。絞首刑となるべきその者の引き渡しを拒否すると、連帯責任として収容所の全員2500名が一日絶食となった。停電のその夜、フランクは居住棟の班長から数日間の病死や自殺の原因となっている自己放棄、精神的崩壊による犠牲者をどうしたら未然に防げるかについて、皆に話すように頼まれた。

「未来のことはだれにもわからない。…未来は未定だ…苦渋に満ちた現在について、過去についても語った。過去の喜びと、わたしたちの暗い日々を今なお照らしてくれる過去からの光について語った。…わたしたちが過去の充実した生活の中、豊かな経験の中で実現し、心の宝物としていることは、なにもだれも奪えないのだ。わたしたちが経験したことだけでなく、わたしたちがなしたことも、苦しんだことも…それらもいつかは過去のものになるのだが、まさに過去の中で、永遠に保存される。

人間が生きることには、つねに、どんな状況でも、意味がある、この存在することの無限の意味は苦しむことと死ぬこと、苦と死をも含むのだ。」

さらに例を挙げて、犠牲について語った。ひとりの仲間が収容所に入って間もない頃、天と契約を結んだ。自分が苦しみ、死ぬなら、代わりに愛する人間に苦しみに満ちた死を免れさせて欲しい、と願った。苦しむことも死ぬことも意味のないものではなく、犠牲としてこの上ない深い意味をもつ。

「わたしたちは、おそらくこれまでどの時代の人間も知らなかった『人間』を知った。人間とは、ガス室を発明した存在だ。しかし同時に、ガス室に入っても毅然として祈りの言葉を口にする存在でもある。

こんなことがあった。現場監督(被収容者ではない)がある日小さなパンをそっとくれた。わたしはそれが、監督が自分の朝食から取り置いたものだということを知っていた。わたしに涙をぼろぼろさせたのは、パンという物ではなかった。あのとき男がわたしに示した人間らしさだった。パンを差し出しながらわたしにかけた人間らしい言葉、…まなざしだった。」

第三段階：収容所から解放されてもすぐには自由を実感できない。強制収容所の人間を精神的にしっかりさせるためには、未来の目的を見つめさせること、つまり人生が自分を待っている。誰かが自分を待っていると常に思い出させることが重要だった。

ところが人によっては、自分を待つ者はもう一人もいないことを知らなければならなかった。

やっと解放されると、体は精神ほどにはがんじがらめになってはいなかった。がつつと、何時間も何日もたべた。コーヒーを飲んでようやく語り始める。

何日かたったある日、花の咲き乱れる野原を突っ切って町まで歩く道すがら、広大な天と地と雲雀の歓喜の鳴き声、自由な空間、頭上を見上げ、がっくりと膝をついて一つの言葉を何度も繰り返した。

『この狭きよりわれ主を呼べり、主は自由なる広がりの中、われに答えたまえり』

委員会等報告

2015年11月分

11月度小教区委員会 11月1日

1. 先月の行事報告

- ・10月12日(月) レクリエーション大会
(於：新田原教会) 参加者0名
- ・10月25日(日)
駐車場献金の取扱説明会
花壇手入れ(協力いただいた方、ありがとうございます)

2. これからの活動予定

- ・11月3日(火) 召命の集い
- ・11月15日(日) 信徒協聖書週間特別講演会・小倉教会 14時30分～
- ・11月22日(日) 聖堂外の電飾飾りつけ、大掃除
教会内の飾りつけは待降節から少しずつ始める
- ・11月23日(月) 巡礼旅行
ザビエル教会
- ・12月11日(金) 共同回心式
10時、19時30分

3. 議題

- 巡礼旅行について
 - ・山口ザビエル教会と徳佐リンゴ園
 - ・参加費 1000円
 - ・締め切り 11月15日まで
- 駐車場献金の取扱について
過去支払いをした方全員に文書を渡して返信してもらう

4. 各委員会・地区から

- 納骨堂委員会より
 - ・利用者が重複していた利用者に別室の納骨堂利用の手続きが完了した
 - ・一室購入があった
- 典礼委員会より
典礼の刷新報告がありその内容について解説があった

5. その他

- 来年の黙想会の日程と指導司祭について
 - ・日程：3月5日(土)、6日(日)
 - ・指導司祭：林神父様(下関)
- ホームレス炊き出しグループより
ホームレス支援のお手伝いをお願いしたい
(食材の費用を受け取る・出来上がったお弁当を小倉まで運べる方)
- 中間地区委員より
 - ・来年の役員改選について
名前を挙げてその中から選ぶ選挙方式を実施してほしい



教皇フランシスコ 環境に関する回勅、ラウダート シ 第4回

第6章 エコロジー的な(生態系への配慮ある)教育と精神

キーワード：新たなライフスタイルへ向かう人間性と環境との契約の教育、エコロジーへの転換、市民と行政の愛、秘跡の印と休息の祝福、三位一体と生き物たちとの関係

最後の章は、すべての人をエコロジー(生態・環境系への配慮)への転換の精神に、招いています。文化の罪の根は深く、習慣や振る舞いを改めるのは容易ではありません。教育と訓練は、これに対する挑戦の鍵となります。「変革は、動機と教育過程抜きには不可能です。」ここで、すべての「教育機関」には、学校における、家族における、通信媒体における教育が含まれています。出発点は、「新たな生活を目指すこと」であり、これはまた「政治、経済、社会的な力を振り回す者に気づかせるために、圧力を与える」可能性を開くことです。これは、消費者の選択によって、「ビジネスにおける、環境的な足跡と、生産のパターンを考慮する様な変化」を可能になるときに、起きるものです。

環境教育の重要性は、過少評価することはできません。それは、行動、日々の習慣、水の消費の減少にも、また浪費と「不必要なライトを消すこと」等にも、影響するからです。総合的なエコロジー(生態・環境系への配慮)は、暴力の論理を絶ち、自己確立の開発に貢献することによって、作り上げられていくものです。

すべては、次に述べる信仰から来る瞑想的な見通しを持って、簡単に始まりそうに見えます。「信者として、父が結びつけたすべての生き物と我々とのきずなの意識なしに、世界を見ることはできない。私たち各々の(神の与えた力量の)発展によって、エコロジー的な転換は、大きな創造性と、熱狂をもたらすことを予期させる。」

出発点は「新しいライフスタイルを目指します」ことです。そして、また、それは「好ましい圧力を政治的で、経済で社会的力を行使する人々に用いる」可能性を開けます。これは、消費者選択が「彼らに彼らの環境足跡と生産の彼らのパターンを考慮することを強制して、企業が営業する方法を変える」ことができる時、起こることです。

環境教育の重要性は、過小評価されることができません。それは行動と毎日の習慣に影響を及ぼすことができます。そして、水の縮小が消費で、無駄のソートで、「不必要な明りをオフにしてさえいます」：「肝要な生態学は、暴力、搾取と自分本位の論理と絶縁する単純な毎日のジェスチャーからも成り立ちます」。すべては、信頼から来る静観的な展望から始めてより簡単です：「信者として、我々は内部以外からのなしでから世界を見ません。そして、父が我々をすべての存在に結んだ債券を意識している。我々の個々の、神から与えられた能力を高めることによって、生態学的な転換が、我々を奮起させてより大きな創造力と熱意をさせることができます」。

Evangelii Gaudium で提案されるように：「幸せは、我々をおとしめるだけであるなんか

のニーズを制限する方法を知っていて、生命が提供することができる多くの異なる可能性を受け入れることを意味します」ちょうどその時、「まじめ、自由に、そして、意識的に生きたとき、解放することはそうです」。このように、「我々はお互いを必要とするという信念を回復しなければなりません、我々が他と世界、その他に対する共有責任をととても適切でいさせることはその価値があります」。

聖者は、我々とこの旅行に同行します。聖フランシス「弱いもののケアで、そして、肝要な生態学で最優秀の例は、嬉しそうに、そして、確実に通いで勤めました」。彼は「自然に対する懸念、貧しい者のための正義、社会への関与と内部の平和間の分離できない結合」のモデルです。



今月の聖人

7日 聖ヨハネ使徒福音記者 1世紀ごろ

ヨハネは、イエス・キリストの12使徒の1人であり、使徒ヤコブと兄弟で、ともにゲネサレト湖畔のベトサイダで漁師をしていた。ヨハネは、ヤコブと漁の網を繕っているときにイエスに呼ばれ、彼の弟子となるためにすべてを捨てて、イエスに従った。ヨハネは、イエスから最も愛された弟子の1人とされ、イエスの処刑のときにも十字架のもとに立ち、イエスから彼の母マリアを母として世話するように委ねられた。

その後ヨハネは、エルサレム教会の指導者としてペトロとともに活躍し、パウロが殉教した後にエフェソの司教として小アジア教会を司牧したといわれている。そしてヨハネ福音書と3つの手紙、黙示録を著わした。彼の福音書は、四福音書のうちで最後に著わされた(90~100年ごろ)。

ヨハネ福音書の中で、キリストは神でありながら真の人間であることが表現され、友のために涙を流すイエスの姿や、弟子に対する友愛、ヨハネに対する愛などが浮き彫りにされている。ヨハネ福音書の中には、ヨハネの名は出てこないが「イエスの愛された弟子」と表現されている。またヨハネの3つの手紙には、キリストの愛の掟についてあふれるばかりに述べられている。

ヨハネは伝説によれば、その後、ローマ皇帝ドミチアヌスのキリスト教迫害が始まったときに、パトモス島に流され、そこから小アジアのキリスト信者たちに「ヨハネの黙示録」を書き送り、エフェソで亡くなったといわれている。





教会学校のページ

初聖体クラス

出席者 永山楓海さん 山田蓮さん

〇5つの祈り

10/25

主の祈り・アベマリアの祈り・回心の祈り・使徒信条・栄唱
〇テキスト ごせいたい 27,28,29,30 を勉強しました。



11/8

● 〇5つの祈り 本を見なくても唱えられるように覚える。
〇テキスト ごせいたい 31,32,33を勉強しました。
〇ありがとつうの歌を歌って終わりました。

高学年クラス

10月25日

出席者 野田明日美さん

マルコ 10章 46節~52節

*盲人バルティマイはイエス様の教えをよく知りませんでしたが、イエス様は「あなたの信仰があなたを救った」と言って癒されました。それは「神様は決して私を見捨てない」ということこそイエス様の大切な教えであり、バルティマイの姿にその教えを見出したからです。
*冊子「こじか」より 司教様のおしごとについて勉強しました。

中高生の集まり

担当 ホルヘ神学生

10月25日

出席者 田中健三郎さん、

野田宏人さん、城龍彦さん、

坂本素珠さん、宗真理恵さん、

マタイ・マルコ・ルカの福音書と使徒言行録に記されている最後の晩餐の箇所を比べました。過越祭と現在のミサとの結びつきを学びました。

11月15日

出席者 野田宏人さん、城龍彦さん、
宗真理恵さん

旧約聖書の中で預言者のリスト、イスラエルの歴史の中で預言者たちの役割(すなわち神と神の民の間の仲介者)を学びました。

また列王記で預言者エリヤと預言者エリシャについて、次にエレミヤの預言者の召命についての箇所を読みました。

12月 おしらせ



水巻聖母幼稚園からのお知らせ

いつも、お祈りありがとうございます。

11月5日(木)は、聖堂で水巻聖母幼稚園の子ども達に七五三のお祝いをしていただきました。ありがとうございました。

「みんななかよく」

12月21日(月) 10時30分～12時

クリスマスのお祝いをします。どうぞお誘い合わせの上、ご来園ください。

準備の都合上 12月14日(月)までに、幼稚園までお知らせいただくと幸いです。